



Prism

「なぜ振り返るの？」に寄り添う——言葉にすることで育つ、子どもたちの力

保護者の皆様、いつも本校の教育活動へのご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

学校では今、生徒たちに「学びの振り返り」を促すことを大切にしています。「まなポート(My Time、プロジェクト、探究)」への記録や、各教科のノートへの記入など、振り返る場面は様々です。

しかし、生徒たちの意識は一様ではありません。「全然書かない」「言われたから仕方なく書く」という子もいれば、「書くこと次の目標が見える!」と前向きに取り組む子もいます。では、なぜ自分の学びを振り返り、それをわざわざ「書く」ことが大事なのでしょう。

実は、大人である私も同じです。日々の仕事が終わった後、「ああ、今日の授業はうまくいかなかったな。もっと生徒がワクワクするような工夫が必要だった…」などと悩み、ノートに改善案を書き出しながら考えています。これは、私自身が「振り返ることの価値」を実感しているからです。

最初からその価値がわかる生徒はいないかもしれません。しかし、コツコツと習慣を積み重ねる中で、少しずつその良さを実感していくのだと思います。

■「振り返り」がもたらす2つの大きな力

・自分を客観的に見る力(メタ認知)

自分の思考や行動のパターンに気づくことで、「自分の強み・弱み」が分かり、次にどう動けばいいかの具体的な改善策が見えてきます。特に、探究学習などで振り返りが充実している生徒は、普段の教科学習へのモチベーションも高く維持できている傾向があります。

・頭の中を整理する「言語化」の力

「わざわざ書かなくても、心の中で思うだけでいいのでは?」と思う生徒もいます。しかし、「書く」という行為によって、頭の中の散らかった思考がすっきりと整理され、新しいアイデアが生まれやすくなるのです。



■ 教師としてのこれからの挑戦

ただ、いくら私たちが「振り返りは大切だよ」と効果を説いたとしても、生徒自身がその意味に納得できなければ、主体的な行動には結びつきません。「どうすれば子どもたちが自発的に振り返りを楽しめるようになるか?」——これは、私たち教師が日々向き合っている大きな問いであり、悩んでいるところでもあります。

無理やり書かせるのではなく、子どもたちが「振り返ってよかった!」と思える瞬間を一つでも多く作れるよう、工夫を重ねてまいります。

ご家庭でも、お子様が何かをやり遂げたときや壁にぶつかったとき、「どうだった?」「次はどうしてみる?」と、小さな振り返りのきっかけと一緒に楽しんでいただけたら幸いです。

◆ 学級風景: 挑戦する姿が教えてくれたこと

先日、「マイスター」のゴールド試験が行われました。8年生からは唯一、Sさんがこの高い壁に挑戦しました。

今、8年生は本当に多忙な日々を送っています。生徒会や委員会の仕事、日々の学習など、目まぐるしいスケジュールの中にあっても、自分たちが「やるべきこと」をしっかりと意識し、精力的に取り組んでいます。そんな中、Sさんは「著作権に対する1~4年生の認識はどうなっているのだろうか?」という問いを持ち、独自にアンケート調査を実施しました。そしてその結果を、理事長先生をはじめ、6~8年生の生徒や先生方の前で堂々と発表したのです。

限られた時間の中で、上手に見通しを立てて資料をまとめ上げたことだけでも立派ですが、驚かされたのはその「プレゼンテーション力」でした。

内容についてはまだブラッシュアップできる部分もあるものの、「聞き手を意識し、自分の言葉で語る姿」は、ある意味で私たち教師と同等、それ以上の説得力がありました。正直なところ、「中学生がここまで質の高いプレゼンができるのか」と、胸が熱くなるほどの感動を覚えました。

これは一朝一夕で身についたものではありません。長年にわたる個人探究で培った力や、各教科の学習で発表の経験を積み重ねてきたからこそその「裏付けられた力」だと確信しています。

もちろん、Sさんだけでなく、学級全体のプレゼン能力も今、ずいぶん向上してきています。今回のSさんのように、自ら一歩踏み出し、新しい場所(他流試合)に挑戦しようとする姿勢が、これから他の生徒たちの中にもどんどん広がってほしいと願っています。

忙しい日々は続きますが、子どもたちがそれぞれの目標に向かって挑戦できるよう、これからも背中を押してまいります。